



W3Cにおける デジタルサイネージ標準化の動き

W3C 岸上順一

3/23/2015

W3Cの組織 (2015年3月12日時点)



Tim Berners-Lee
創始者
最高技術責任者/Director



Dr. Jeffrey JAFFE
最高経営責任者/CEO

Technical Architecture Group (TAG)

Advisory Board

岸上順一、2/2015に東京で開催された

Team Staff

〔分野別に運営管理〕

- Management
- Administration
- Business Development
- Information and Knowledge Interaction
- Marketing & Communications
- Systems
- Technology & Society
- Ubiquitous Web
- Web Accessibility Initiative

Host (地域別に運営管理)

MIT

- 北米
- 南米
- アジア (日中韓除く)
- オセアニア

ERCIM

- 欧州
- アフリカ

慶應

- 日本
- 韓国

北京航空航天大学

- 中国

標準化仕様書はWGが作成

Working Group (48)

Interest Group (15)

Business Group (3)

Member

会員総数 394

Advisory Committee (会員代表者)

- 〔会員社の年商に応じて年会費が異なる〕
- 年商1000億円以上 = 年会費740万円
 - 年商57.5億円以上～1000億円未満 = 年会費620万円
 - Introductory Industry Membership(310万円：年商57.5億円以上の企業で一つのIGにのみ参加可能)
 - 上記以外及び非営利団体、行政機関 = 年会費85万円
 - 年商2.5億円未満の小規模団体等 = 年会費21.5万円

Business Group Member

- 〔会員社の年商に応じて年会費が異なる〕
- 23,000円(個人参加)～775,000円
- ※正会員より低廉(正会員は無料)
- WG等への参加や仕様策定は不可

日本会員 32

富士通、KDDI、NTTドコモ、東芝、ACCESS、キヤノン、ソニー、日本電気、日本電信電話、楽天、パナソニック、三菱電機、インターネットアカデミー、Lunandscape、NHK、ニューフォリア、オロ、ミツエーリンクス、未来技術研究所、トマデジ、Lei Hauoli、(社)音楽電子事業協会、jig.jp、鯖江市、アンテナハウス、日本レジストリサービス、Beyond Perspective Solutions、レビダム、ティファナ、ECN、Vivliostyle、日本民間放送連盟(民放連)

主要な会員企業 (例)



日本BG会員 9

- <Web and Broadcasting BG>
日本テレビ、テレビ朝日、TBS、テレビ東京、フジテレビ、wowow
- <Web-based Signage BG>
博報堂D Yメディアパートナーズ
- <Automotive and Web Platform BG>
JEITA (電子情報技術産業協会)、JARI (日本自動車研究所)

W3Cにおける国際標準化動向

経緯

Webと連携したデジタルサイネージの表示技術・配信技術は、HTML5の仕様の影響を強く受けるため、W3Cにおいてデジタルサイネージの検討を進めるべく、我が国から働きかけを行ってきた。

B G 設立

2012年4月、日本の提案により、Web-based Signage Business Groupを設立（チェア：ニューフオリア羽田野氏）。インターネットに接続された多様なディスプレイをWeb技術を使って制御する汎用型デジタルサイネージのユースケース、要求条件を検討。

これまでの主な取組

- | | |
|----------|---|
| 2012年 4月 | Business Group設立 |
| 2012年 6月 | デジタルサイネージワークショップを千葉・幕張で開催。
(Interop2012/DSJ2012と併催)
○Webベースデジタルサイネージシステム構築のためのモデルの明確化
○Web標準と既存のサイネージシステムとのよりよい統合化 |
| 2012年10月 | TPAC@フランスにおいて、日本からユースケース、要求要件などを提案。 |
| 2013年 8月 | ウェブ技術を使ったサイネージを実現するための技術的要件のうち、基本要素にあたる「Architecture and Requirements for Web-based Signage Player-Core Profile」をW3Cへ提案。 |

W3C/慶應 デジタルサイネージとHTML5 セミナーのお知らせ

日時：3月26日(木) 13時より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

アジェンダ <http://www.w3.org/2015/02/19-signage-seminar/>

1. 開会のご挨拶 W3C/慶應村井純 教授
2. 総務省ご挨拶/2020年に向けた取組について 総務省 情報通信政策課
3. デジタルサイネージの概況～拡大する活用領域～ デジタルサイネージコンソーシアムDSC専務理事 伊能美和子様
4. HTML5ベースサイネージ事例紹介
 - NTT「選手情報も災害情報もサイネージからスマホで取得」
 - (株)リクルートテクノロジーズ「WebエンジニアにとってのIoT ～PhysicalWebの技術とサイネージへの応用～」
5. サイネージのためのWebプロファイル(デモ含む) W3C Web-based Signage BG議長 (株)ニューフォリア 羽田野太巳様
6. Web-based Signageの端末性能要件・端末テスト仕様・コンテンツ開発ガイドライン紹介Webプラットフォーム性能ベンチマーク検討会
7. パネルディスカッションー未来のサイネージへ向けてー
 - モデレータ: 慶應大 菊池尚人 特任准教授
 - パネリスト: DSC 伊能美和子様、リクルートテクノロジーズ 加藤亮様、室蘭工大 岸上順一教授、ニューフォリア 羽田野太巳様
9. 閉会のご挨拶 (W3C/慶應 中村修 教授)
10. 懇親会

TPAC2015

- 日程: 2015年10月26-30日
- 場所: 札幌 札幌コンベンションセンター
- 参加予定数: 500名
- Webサイト: <http://www.w3.org/2015/11/TPAC/>

->日本の産業界の意見を反映する, 絶好の機会!



デジタルサイネージシステムの標準化に向けて

これまでの状況

- これまでW3CのBGにおいて、災害時のデジタルサイネージへの情報発信などの基礎的考え方は、議論してきたが、実用化に向けた議論は進展していない状況。
- 災害経験国の我が国において、非常時の情報提供手段として有用なデジタルサイネージシステムについて、世界に先駆け規格をまとめ、提案することが重要。

標準化に向けた条件

- W3Cにおいて、標準規格を提案するためには、WGからの提案、WGでの議論が必須。
- 標準規格となるためには、二つ以上の実装事例が必要。

今後の進め方

- W3Cでデジタルサイネージやその他新たなメディア検討のためのWG化を進める。
- 国内での推進体制の構築: デジタルサイネージシステムについて、二つ以上の実装、規格の策定、提案等を行うための、関係者一体となった推進体制の構築。
- 実装のためのフィールド実証: システム実装に向けて、クラウドを活用した災害時の一斉配信、スマホタブレット等連携による多言語対応などを実現するサイネージシステムを検証するため、効果的地域におけるフィールド実証が重要。
- 重要性の醸成、ショーケースの実施: 今年10月のW3C技術総会TPACは、世界中から500名以上の各国技術責任者が集まる絶好のショーケースの場。この機会を是非捉え、我が国最先端のサイネージを活用した「街ショーケース」を体感。

